

# 特別支援学校における地震防災対策

徳島大学大学院 学生会員 橋本 悠太郎

## 第1章 研究の背景と目的

日本は地震が多く日々の防災対策が重要となってくる。特に、最近では平成7年1月17日に発生した阪神淡路大震災、平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして平成28年4月14日の前震と16日の本震が発生した熊本地震と大規模地震が多く発生している。これらの災害の経験から、学校防災の在り方を考え直す機会となっている。

特別支援学校において、在籍生徒が「肢体不自由」、「発達障害」、「知的障害」、「視覚障害」、「聴覚障害」といった特徴を持ち、特別な支援が必要である。彼らは自立的な行動に不自由があるため、「助け合うこと」や「お互い協力しあうこと」といった地域の人々などの他者との協力が不可欠となってくる。本論文では、防災対策や避難所運営、学校再開について、熊本県では災害時の状況、徳島県では現状で計画や対策をしていることについてヒアリング調査を行い、その結果から問題点・課題を抽出し、特別支援学校に必要な地震防災対策を見出していくことを目的とする。

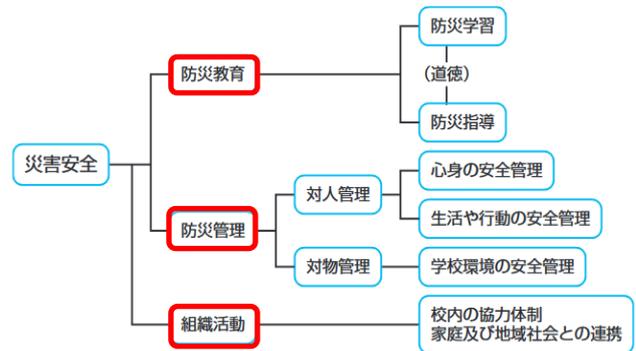


図1. 災害安全の構造

## 第2章 学校防災について

### 2-1. 学校安全の構造

学校安全は、「安全教育」「安全管理」「組織活動」の3つの主要な活動から構成され、「生活安全」「交通安全」「災害安全」の3つの領域からなっている。学校安全の一領域である災害安全は、図1のようになっている。

### 2-2. 学校における防災活動の事例

全国の様々な学校で防災教育が行われており、その事例として徳島県立富岡西高等学校防災クラブ、高知大学防災すけっと隊、神戸学院大学現代社会学部社会防災学科の3つについて挙げた。

### 2-3. 特別支援学校の防災

一般の学校と特別支援学校の違いについて示した。また、特別支援学校における様々な防災活動があり、千葉県教育委員会における「防災セルフチェック」と、神奈川県の特設支援学校における「煙体験」などの活動について、災害時に役立つことを記した。

## 第3章 熊本地震における特別支援学校の被害と対応

平成28年4月に、熊本県で大規模地震が発生し、現地では建物の崩壊や土砂災害、液状化現象など甚大な被害が出た。特に学校関連では、校舎の損害や避難所運営などで授業や学校行事を行える状態ではなく、ほとんどの学校は休校状態が約1ヶ月続いた。

### 3-1. 調査概要

本調査の内容は、大きく分けて特別支援学校における被害状況、地震発生時から学校再開までの対応について、熊本地震から得た災害対応に対する教訓の3つについて、平成28年8月31日から9月2日にかけて図2の場所でヒアリング調査を行った。



図2. ヒアリング調査場所（熊本県）

### 3-2. 調査方法

熊本地震における特別支援学校の被害状況や避難所運営から学校再開までの対応、熊本地震から分かったことについて、熊本県立盲学校、熊本県立熊本支援学校、熊本県立大津支援学校へヒアリング調査を行った。

### 3-3. 調査結果

熊本地震における経験から言えることから、「地震は来ない」とは考えず、地震に対する意識を高めていく必要がある。避難所に関することは、学校と町だけで活動するのではなく、県や国で広域的に活動することが重要になってくる。

### 3-4. 考察

共通していたこととして、熊本地震が発生するまでは、全ての特別支援学校において「熊本県で地震は発生しない」と思っていたことである。熊本県阿蘇郡西原村にある西原村立河原小学校では、「地震は絶対来る、もし来れば西原村は孤立する」と堀田直孝さんが断言していたこともあり、地域の人々が訓練を行ってきたことで、今回の熊本地震での西原村の死者は5人ととどめることができた。日頃から災害に対する意識を高めていくために、地域と協力して「地震は必ず発生する」という考えを持つようにしておくことで、実際に災害が発生した時の対応が素早く的確に行うことができるようになってくると考えられる。

## 第4章 徳島県の特別支援学校の現状

熊本県の特別支援学校へのヒアリング調査で聞いた体験談などから、徳島県の特別支援学校の現状について調査し、防災対策に対する課題や問題点を抽出する必要があると考えたため、徳島県の特別支援学校6校でヒアリング調査を行った。

### 4-1. ヒアリング概要

ヒアリング調査の内容は大きく分けて、特別支援学校で行われている防災対策について、災害発生後の緊急対応から学校再開までの対応、今後の検討と課題の3つである。この3つの内容について、徳島県の特別支援学校へ図3の場所へヒアリング調査を行った。

### 4-2. 各学校の防災活動及び現状

徳島県立ひのみね支援学校、徳島県立みなと高等学園、徳島県立徳島視覚支援学校・徳島県立徳島聴覚支援学校、徳島県立板野支援学校、徳島県立阿南支援学校、徳島県立国府支援学校へヒアリング調査を行い、各学校の防災活動及び現状についてまとめた。

### 4-3. 考察

共通していることは、津波被害が考えられる学校が地震対策と津波対策の両方において、積極的に訓練などを行っていることである。その中で抜き打ち訓練の重要性について見出すことで、実際に災害が発生したときに生き延びることができるようになってくると考えられる。

## 第5章 まとめ

本研究において重要なことは、特別支援学校の幼児・児童生徒が特別な支援が必要になってくることを理解することである。例えば、肢体不自由者であれば喉に力が入らず声が出ない、食事を食べにくい、表情が固い、自閉症であれば避難訓練などの突然な出来事にだけでなく、周りの環境が変化するだけでパニックに陥るなどといった特徴がある。今後の課題として重要なのは共助の能力の向上であり、地域の人々や児童生徒同士で助け合う、他者を巻き込んだ訓練を行うことで、地震防災対策への意識向上が図ることができると考える。



図3. ヒアリング調査場所（徳島県）